

法政大学学術機関リポジトリ  
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

## 卒業論文題目

雑誌名	日本文学誌要
巻	10
ページ	77-79
発行年	1964-09-20
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10114/00019092">http://hdl.handle.net/10114/00019092</a>

# 法政大学日本文学科卒業論文題目

一九六三年度

金原チヅ子	貧窮問答歌について	勝元 久子	伊勢物語の方法	山本 雄司	武家気質と義仲の人間像
中城千香子	初期万葉に生きた歌人額田王	鈴木 佑子	伊勢物語の方法―主人公の形象を中心―	伊藤 京子	平家物語の思想
寛山 勝茂	山上憶良の反抗精神	関川 晴美	古事記・日本書紀のアマテラス神話を通して見た日本神話	西森 重忠	平家物語の説話的方法
岡出 政義	歌謡曲論	三沢 清雄	伊勢物語論	内倉 圭子	徒然草に見られる兼好の人間觀
国本 治雄	山上憶良・七夕歌の考察	上 佳甫	光源氏と藤壺・紫の上・夕霧との關係	川崎 彊	能の物まねの特質とその限界
高木 祥子	防人歌の中にあるもの	今村 文雄	平家物語における義仲像について	松原清太郎	世阿弥の稽古論―風姿花伝・至花道・花鏡―
山田 元輝	私感 山上憶良	柿元 利光	平家の人間形象	松永 玲子	世阿弥の風姿花伝における「花」の考察
青木 昌英	源氏物語の一考察―宇治十帖の女君	笹野 健一	平家物語の一考察―僧兵について―	藤原 政文	稽古と上手
鈴木 紀夫	源氏物語―宇治の世界と浮舟	星 和美	平家物語の達成―序章を中心にその思想についての一考察―	観世 恭秀	世阿弥芸術論に於ける公案の位置
竹野 博正	伊勢物語論	蓬田 邦弘	知盛と教経―平家物語における二つの像―	伊藤 司	世阿弥芸術の本質
永野 茂	伊勢物語私論			泉沢 清富	世阿弥の稽古論
伊東 清治	伊勢物語論			岡部 道	世阿弥の芸術論における「花」の思想
吉沢のり子	伊勢物語に於ける業平像のもつ意味			木村 邦子	世阿弥の芸術論における幽玄の考察
中島 幸子	伊勢物語の方法			小林 径子	風姿花伝における能の个性的演
岩瀬 康子	伊勢物語論				

技の成立

石井由美子 雨月物語の怪異描写について

啄木自身の人生態度

打越 健二 世阿弥の創作論考

磯 寿雄 雨月物語に於ける人物描写

牛原 裕昭 国木田独歩の少年作品研究

梶塚 千広 利休までの茶道

大林 恵子 町人生活と世間胸算用に於ける

川崎 利夫 独歩の作品に見る出生と運命観

浅見 真広 能楽に於ける演劇性

悲喜劇性

藤村文学に於ける「旅」の考察

吉田 収司 芭蕉論その敗北的契機を追って

権代 君子 雨月物語の研究（性格描写について）

島崎伊代子 近代日本文学における夏目漱石の孤立性

猪野 菊子 仮名草子論

坂井利三郎 西鶴の作品研究の方法について

角田喜美子 二葉亭四迷・浮雲について

古井 清 未完結への衝動—その連句的断面—

齋藤 道夫 堀川波鼓論

服部 康昭 国木田独歩論

松下 孝子 西鶴置土産について

橋本 彰子 試行・鎗の権三重帷子論

吉沢 信吾 独歩と信子

望月 俊子 心中天の網島に於ける二人の女の義理

町島 芳章 河内屋与兵衛の意味するもの

三浦 良教 独歩と信子

吉住 治子 近松門左衛門。曾根崎心中—世話浄瑠璃の成立をめぐる—

中村 昭 堀川波鼓についての一考察

広瀬 友信 自然主義と国木田独歩とその作品

山部 仁子 好色一代男—転合による美の創造—

高山亮太郎 近松世話悲劇脚色の一考察—敵役のない三作品の場合—

久保 晃 国木田独歩と自然主義

内藤 嗣郎 日本永代蔵に於ける西鶴の方法

中島 芳子 梶井基次郎に於ける「生と死」の一考察

加藤 勲 国木田独歩の作品を通しての独歩像

大日方弘一 一茶序説—過渡期の詩—

本島 博 姦通三部作抄論

原田 守雄 梶井基次郎論

伊藤 愛子 役者論

我妻 弘 新生について

富田 重男 新生について

鬼沢 久雄 好色五人女小論

山本 亮介 国木田独歩における社会主義的リアリズムへの私観

岡松 真一 中野重治論—その自伝三部作の位置—

高橋 義雄 五人女小冊

林 玲子 近代日本文学に現われた家意識—藤村と花袋に於ける—

神明 久雄 永井荷風論

宮尾 隆治 雨月物語研究序説

後藤 国男 独歩における少年像

野田 道子 心頭雑草に現われた与謝野晶子の人間像について

土屋日出夫 上田秋成のますらお心について

細野 昌子 たけくらべと樋口一葉

武島 満子 宮本百合子—伸子を中心として

福井 紀昭 西鶴の好色五人女に於ける人物描写について

一川 政恵 「雲は天才である」に現われた

小椋 昭夫 日本プロレタリア芸術理論と芸術的価値

吉津 武美 好色五人女について

一川 政恵 「雲は天才である」に現われた

小椋 昭夫 日本プロレタリア芸術理論と芸術的価値

- 小林 敬忠 前田河広一郎試論  
 秋山 英昭 中野重治論—政治と文学の出合  
 い—  
 上田 容子 志賀直哉小論—和解その前後—  
 梶間 陽子 志賀直哉研究暗夜行路を中心と  
 して  
 藁谷 良樹 坂口安吾の文学  
 笹井 俊紀 多情仏心について—里見淳論  
 渡辺 明子 牧野信一試論  
 齊藤 草子 小林多喜二防雪林の文体につい  
 て  
 大津 寛己 片岡鉄兵論  
 伊藤千恵子 島木健作その初期の作品  
 渡部 ヨシ 平林たい子論  
 山下 寅彦 中原中也に於ける意識と詩  
 新栄知恵子 太宰治論  
 木村 敏伸 堀辰雄に於ける死の問題につい  
 て  
 名和 道子 生活記録運動  
 水谷 明子 太宰治論  
 八畝 恵 太宰文学に於ける「故郷もの」  
 の意義—津軽を中心として—  
 門脇浩次郎 室生犀星論  
 吉田貞三郎 有島武郎の小説  
 夏目みよ子 タカクラ・テルの文学
- 山口 孟男 野間宏論  
 島地 三郎 未明文学と風土性  
 野中 昭 未明童話に於ける空想について  
 飯山 博充 日本童心主義文学論序説—未明  
 における原始的気分—  
 国府真理子 山本有三の小説に現われた児童  
 像  
 江野 仁基 「魯純な猫」からの展開  
 小泉 光徳 賢治童話の特異性について  
 柴森 順子 児童文学における一考察  
 外井 通之 賢治の童話における特異性を形  
 造るもの  
 水野 邦之 壺井栄論  
 村本 邦夫 賢治童話の特徴  
 加藤 治郎 小川未明の研究  
 泉 朝信 未明作品論（大正期を中心に）  
 新しい児童文学のあり方  
 仲村渠清喜 小川未明童話試論  
 武田 道明 明治初期における少年文学の刊  
 行物に見る一方向  
 尾山源次郎 小川未明試論  
 有我 尉 新劇運動の過程とその発展性  
 高木 要 文芸戦線の研究

# △バックナンバー▽

## 日本文学誌要 第九号▽

### 目次

- 選ぶという事……………広末 保  
 山上憶良の詩と真実……………秋間 俊夫  
 平家物語「祇王」説話のおいたち  
 —諸本の異同をとおして—……………桜木 泰弘  
 説教節「あいごの若」についての  
 モノローグ……………山本吉左右  
 蕪村詩の方法……………篠藤 允彦  
 批評の問題—小林秀雄をめぐる—  
 ………………岸 宣夫  
 △日本近代文学史叙述の研究5▽  
 杉山平助『文藝五十年史』  
 ………………吉田 栄治  
 一九六三年八月一〇日発行
- バックナンバーについてのお問い合わせ  
 は事務局へお願いします。ご送金は振替  
 をご利用ください。  
 東京六四九三番 法政大学国文学会